

病害虫発生予察情報(飛騨地域) 8月予報

【 水稻 】

いもち病(穂いもち) ※病害虫発生予察注意報第4号(R3.7.29付)発表

BLASTAM(アメダスデータを用いた葉いもち発生予察システム)によると、7月第2半旬~第5半旬にかけて、感染好適日、準感染好適日が頻繁に確認されており(表1)、高山市内の一部ほ場では、いもち病によるすり込みなどの激しい被害(図1)が確認されています。

防除は、ほ場の確認を必ず行い、上位葉で葉いもちの発病が確認された場合は、直ちに治療効果がある薬剤により追加防除を行ってください。なお、薬剤の種類によっては耐性菌の発生が報告されているため、薬剤の選択に注意してください(※病害虫発生予察注意報第4号 参照)。

斑点米カメムシ ※病害虫発生予察注意報第3号(R3.7.29付)発表

高山市国府町に設置した予察灯において、斑点米カメムシ類^{※注}のうちアカスジカスミカメ(図3)の5月第1半旬~7月第5半旬までの累計誘殺数が、554頭(平年222頭)と平年の約2.5倍誘殺されており(図4)、今後斑点米被害の増加が懸念されます。

本虫は畦畔等の雑草地に生息し、水稻の出穂とともに水田に飛び込むため、出穂10日前までに畦畔等雑草地の除草を徹底してください(雑草を出穂させないこと)。なお、水稻の出穂直前及び出穂後の除草は、斑点米カメムシを水田内に追い込み被害を助長する恐れがあるためしないでください(※病害虫発生予察注意報第3号 参照)。

※注 斑点米カメムシ類: 籾を吸汁することで斑点米の原因となる小型~大型のカメムシ類の総称。

飛騨地域では、カスミカメ類のうちアカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメの2種類が優占種である(※詳しい特性等は岐阜県病害虫防除所HP 病害虫図鑑を参照)。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測(8月)

	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
水 稲	生育(高山市)	並							(生育はコシヒカリ)
	穂いもち	多	< 初発生 >						穂いもち
	斑点米カメムシ類	多	< 出穂後本田に侵入 >						葉いもちの発生ほ場では、穂いもちの防除を実施する。
	防除適期		▲ ← → ▲ 穂いもち(穂揃期・乳熟期)						斑点米カメムシ類
			▲ ← 斑点米カメムシ(剤の種類による) → ▲						散布剤での防除は穂揃期およびその7~10日後の2回実施が効果的。
									粒剤での防除は出穂期の7~10日後に行い、斑点米カメムシ類の発生が多い場合は出穂~穂揃い期に実施する。
ホ ウ レ ン ソ ウ	べと病	並	< 高標高地で発生 >						べと病
	コナダニ類	並	< 盛夏過ぎの発生に注意 >						高標高地では、月後半に発生の恐れがあるため、予防散布を行う。
	防除適期		▲ ← べと病(高標高地) → ▲ ▲ ← コナダニ(防除) → ▲						コナダニ類
									盛夏を過ぎるとほ場により多発することがあるため、発生に注意する。
ト マ ト	灰色かび病	やや多	< 曇雨天時の発生注意 >						灰色かび病
	葉かび病	やや少	< 初発生 >						花がらや葉先枯れはすぐに除去する。発生後はできるだけ早い時期に治療効果が高い薬剤で進行を止める(葉かび病も同様)。同一系統薬剤の連用は避ける。
	防除適期		▲ ← 灰色かび病 → ▲ (予防剤の散布、ローテーション防除) ▲ ← 葉かび病 → ▲ (予防剤の散布、ローテーション防除)						葉かび病
									樹勢低下防止と防除を徹底する。
野 菜 全 般	タバコガ類	やや少	< 発生最盛期 >						タバコガ類
	防除適期		▲ ← タバコガ類(早期発見・早期防除) → ▲						防虫ネットの被覆がない場合は注意する。

注) ▲、▲←→▲: 防除適期

果樹全般	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
	生育(高山市)	並							(生育はモモ)
	カメムシ類	少	< 越冬または第1世代成虫 >						カメムシ類
	防除適期		▲←	カメムシ類(果樹園飛来時)				→▲	飛来が認められた場合は直ちに防除を実施する。

注) ▲、▲←→▲: 防除適期

調査データ

表1. 令和3年7月 BLASTAM によるいもち病感染好適条件の出現

	河合	神岡	白川	栃尾	高山	六厩	宮之前	萩原	宮地	金山
7月8日	●	●	-	●	●	-	-	-	-	-
7月9日	●	●	-	△	-	-	-	-	-	●
7月10日	-	-	-	-	●	△	-	-	●	-
7月11日	-	-	●	●	●	△	-	-	-	-
7月12日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月13日	-	●	●	●	-	◎	-	●	●	●
7月14日	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-
7月15日	-	●	-	●	●	-	●	●	-	-
7月16日	-	-	-	●	●	△	-	-	-	-
7月17日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月18日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月19日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月20日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月21日	-	-	-	-	-	◎	-	▲	-	-
7月22日	-	-	-	●	-	-	-	▲	▲	-
7月23日	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-
7月24日	-	-	-	-	-	-	-	▲	-	-
7月25日	-	-	●	-	▲	-	●	-	-	-
7月26日	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-
7月27日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

凡例 △: 準好適条件 (湿潤時間10時間以上だが、前5日間の平均気温は20°C未満)
 ▲: 準好適条件 (湿潤時間10時間以上だが、前5日間の平均気温は25°C以上)
 ○: 準好適条件 (湿潤時間10時間以上だが、湿潤期間の平均気温は15~25°Cの範囲外)
 ◎: 準好適条件 (湿潤期間が湿潤時間中の平均気温ごとの必要な時間より短い)
 ●: 好適条件 (湿潤時間中の平均気温が15°C~25°Cであり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20°C~25°Cの範囲にある)
 -: 好適条件、準好適条件は満たされなかった
 空白: 欠測値があるため判定不能
 * 感染好適条件が現れると感染し、潜伏期間 (5~10日) を経て発病します。



図1 いもち病によるずり込み症状 (R3. 7. 28 撮影 高山市内)



図2 葉いもち病斑 (R3. 7. 28 撮影 高山市内)



図3 アカスジカスミカメ成虫

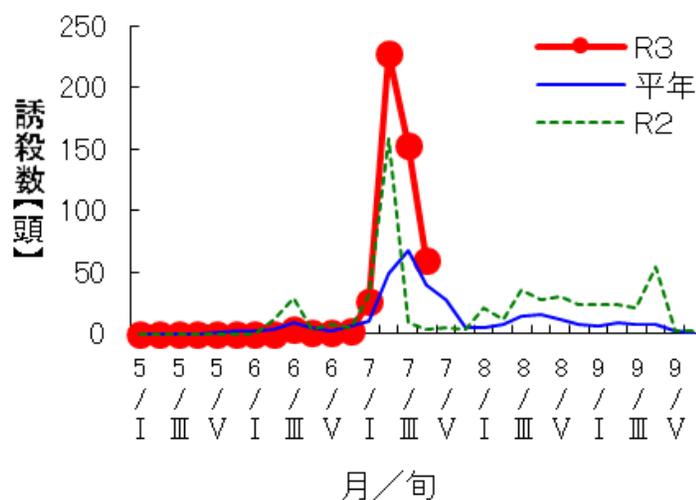


図4 予察灯によるアサジカスミカメ誘殺数の推移 (高山市国府町)

6~8月は「農薬危害防止期間」です。

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

東海地方1か月予報 (名古屋地方気象台 7月22日発表)

向こう1か月の気温は、暖かい空気が流れ込みやすいため高いでしょう。また、向こう1か月の降水量は、湿った空気の影響で平年並みか多いでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/>

飛騨支所 〒506-8688 高山市上岡本町 7-468 TEL (0577)33-1111 (内線 245) FAX